

物的環境に関連するインシデント・アクシデント事例

事例番号 373

| | | | |
|-----------|--------------|---------------|--|
| 発生場所 | 洗面所・浴室 | 精神・意識障害の有無 | リスク B. 物の性能のリスク D. スタッフによる物の不適切な使用・利用・選択・設置・確認不足によるリスク |
| 発生場所（その他） | | 無 | |
| 関連したもの | 手すり、段差、入浴マット | 発生内容の分類 転倒 | |

発生内容

転倒

概要

病態の変化で車イスを使用していた患者。リハビリにて見守り歩行まで回復する。シャワー浴の際、見守りで行っていたが、バスマットの端に足を乗せたところ、バスマットと共に滑り、両上肢をついたため上腕骨骨折した事例。

要因

滑り止めマットがバスマットより5cmほど小さく、端に乗ると滑る可能性があることの認識が無かった。シャワーのある場所から更衣する場所まで、濡れた足で4～5mの距離があった。手すりの付近に脱衣籠があり、手すりが使えるように整頓されていなかった。

対策

- ・バスマットの見直し
- ・脱衣場所の検討
- ・浴室の整理整頓

参照